い ち き 事 来 野

愛がいっぱいのまち



Ichikikushikino City





では、 「中吉計画」の中心人物 三角 銀倉さん (益) と鏡田 大助さん (省) 中央の2つの桶に入っているのは今回できあがった『生揚げ客漁」

原点回帰へのチャレンジ

黒を基調とした落ち着いた外観の工場に入ると醤油の香りが漂ってきます。吉村醸造の工場の一角で、「仲吉計画」がスタートしたのは3年前でした。「仲吉」とは、醤油やみそを製造販売する吉村醸造の創業者、吉村仲吉さんの名前です。

醤油づくりは、まず、原料の 大豆や小麦を発酵させたもろ味 を絞り「生揚げ醤油」を作りま す。これに「火入れ」という加 熱作業を経て味を付け、私達が 普段食する醤油になります。

製造工程の中で特に重労働だった「生揚げ醤油」つくりは、高度成長期時代、安定した品質の醤油を低コストで供給するため、昭和42年に作られた鹿児島県醤油醸造協同組合で生産されるようになりました。

以降、一部の銘柄を除き、鹿 児島ではこの組合から「生揚げ 醤油」を仕入れ、各社がそれぞ れ培ってきた醤油作りの要となる「火入れ」と味付けをして出 荷しています。

「仲吉計画」では、この「火入れ」前の「生揚げ醤油」も自分たちで作ろうということになりました。「醤油屋でありながら一から醤油を作っていないことに違和感を持っていた」という4代目の吉村康一郎さんの思いも後押ししました。

とはいえ、50年もしていない 作業です。作り方を学ぶため組 合工場や手づくり醤油の醸造元 を訪ね、木を伐り出して麹を育 てる「もろぶた」を作り、そし て、もろ味の試作を繰り返し、 1年以上の準備を重ね、昨年3 月にもろ味を仕込みました。

もろ味は発酵して熱を出します。この温度が高くなりすぎると醤油にならないため、仕込んでから丸2日間は空気を送り込む撹拌作業を24時間体制で行

吉村醸造株式会社

い、その後も定期的に撹拌する 作業を続けました。製造の中心 にあった濵田大助さんは「みな の協力がなくてはできなかっ た」と振り返ります。

そして、いよいよもろ味を絞ることとなった今年2月23日、出てきた「生揚げ醤油」を見て、今までの苦労を振り返り、組合がなかった仲吉やその後に続く先人の苦労を理解したそうです。

「仲吉計画」は「何か新しいものを」という取り組みでしたが、手作りでもろ味を作っていた先人たちの思いを受け継いこうという原点回帰のプロジェクトでもありました。プロジェクトの進行管理を担当した三角和稔さんは、こうした取ともに成長したい」と話しました。

この「仲吉計画」は進行中。 この経験を活かし、社訓「新し くて楽しいことの創造」への チャレンジはまだまだ続きます。



褒められて伸びる子のコラム

VOL.23 今月のコラムニスト 小林史和

ickkskn2016

[ALUHII]

「良い香りがするね?」

僕がkalitaの電動ミルで珈琲豆を挽いているとそ の香りにつられて数人が周りに集まってきた。続い てフィルターの中にできたピッチャーマウンド状の 粉にお湯を落とすと、その香りは更に強まり集まっ た人たちの口角も上がる。珈琲の香りには気分をリ ラックスさせたり、集中力をあげたりと不思議な魅

鹿児島県の西部、東シナ海に面したここいちき串 木野市が、実は"珈琲のまち"だということをご存知 だろうか?

1975年、市内で初めての自家焙煎珈琲店「ジャ マイカ | がオープンし、次いで 「パラゴン」 「マリアッ チ」がオープンした。港町で船乗りが多かったこの まちは、船員が船上で珈琲を愛飲していただけでな く、外国航路の土産品として外国の珈琲豆を持ち帰 る人が多かった。そのため県内でも早くから珈琲を 飲む文化があり「鹿児島の珈琲はいちき串木野市が 発祥」とも言われている。その後、天文館へ自家焙 煎珈琲を持ち込んだ「カフェ・ブラームス」や「ラ イムライト」の創始者たちも皆、いちき串木野市の 出身だと聞いたときは僕の中で「鹿児島の珈琲はい ちき串木野から始まった と確信するようになった。

時は流れ2016年、羽島の白浜温泉に [SHIRAHAMA COFFEE STAND] が登場し、"珈 琲のまち いちき串木野"は着々と受け継がれている。

この本を読み終わる頃にはきっと珈琲が飲みたく なると思うので、今から準備しておくことをお勧め したい。



みなさんこんに ちは!この文章は 僕が今取り掛かっ ているフリーペー パーの導入部分で す。4月にはいち き串木野市内や、 鹿児島県内その他

へお届けできると思います。タイトルは [ALUHI (あ るひ)」と読みます。ギリシャ語で"始まり・起源"と いう意味で、この本を読んでくれた人の中で小さく ても良いから何かが生まれてくれたら良いなという ちょっと大袈裟な願いが込めてあります。

それともうひとつ、この春出版になる『みんなの 鹿児島案内。』という本に僕の書いた記事が載るの で手に取って頂けると嬉しいです。

4月からは、僕の地域おこし協力隊任期のラスト イヤーとなるので、なんとか鹿児島に残れるように 頑張りたいと思います!それでは!



Ichksgram





gacky0809



まぐろの館さんでの、 落語家桂竹丸師匠の トークショーに行って きました。お笑いのイ ベントもできるよう頑 張ります!

(板垣勝)



takatchan_7



V O A 初めて砂に蒸されまし #指宿#砂蒸し#砂楽 #10分のところを15分 #サイコーでした (高嶋直輝)



misaki kameoka



この前の「お写んぽ」 でカメラ女子デビュー しました♡ 暖かくなってみんなで お写んぽしたくなる季 節になりますね!

(亀岡美咲)



hanadanaolo



 \bullet \bigcirc \triangleright 今日もどこかでボッ チャ!楽しいですよ! (花田直樹)

姉妹都市盟約39年(サンキュー) 訪問団サリナス市へ義援金届ける



2月11日から17日にかけて、姉妹都市盟約39年市民訪問団が、米国カリフォルニア州のサリナス市を訪問し、サリナス市役所をはじめ「エデンの東」で有名なスタインベックハウスやアメリカを代表する大規模農業法人などを視察しました。

来年は、姉妹都市盟約40周年を迎えることから、 サリナス市の訪問団が本市を来訪する約束を交わ しました。今後も末永い草の根活動が期待されます。

また、昨年10月に発生したカリフォルニア州北西部大火災に対して、羽島史跡顕彰会をはじめとする多くの方々から寄せられた復興支援金5,500ドル(62万円)を、サンタローザ市で壊滅的被害を受けた「長沢鼎」ゆかりのワイナリー「パラダイス・リッジ」に届けました。

オーナーのルネ・ビック氏は、「いちき串木野市 民の厚意に心から感謝します。これからも長沢鼎 の功績を称え、1年半後のワイナリー再建に向け て頑張りたい」と感謝の言葉を述べました。





サリナス市長と。他にも姉妹都市協「いちき串木野市まで会やサリナス市串木野人会から熱烈 5428マイル」の標識な歓迎を受けた。

ななつ星のおもてなしに感謝の盾



昨年6月まで、市来駅に一時停車していた「クルーズトレインななつ星in九州」を、市民や観光関係者などが横断幕や踊りなどでおもてなししていたことに対して、運行するJR九州より、感謝の盾が2月16日に贈られました。

JR九州の担当者が「お客様より多くの喜びの声が届いていた」と謝意を述べると、さのさ踊りでおもてなしを続けていた串木野さのさ踊り保存会の高橋いち子さんは、手づくりポスターでさのさ踊りをアピールしたエピソードを紹介し、「小さなお手伝いだったけれど、ななつ星の前で踊りを披露できたことは嬉しかった」と思い出を語りました。

ななつ星は平成28年4月から平成29年6月まで、 毎週木曜日に5分間市来駅に一時停車していましたが、九州北部豪雨の被害の影響でルート見直し を余儀なくされ、現在は停車していません。

春の徐福ロマンロードを ウオーキングで楽しむ



3月4日、明治維新150周年記念第22回徐福ロマンロードウオーキング大会が開催されました。

この日は汗ばむ陽気の中、3km・7km・10Kmの3つのコースに、大人から子どもまで430名が参加し、緋寒桜や梅が咲く春の冠岳・生福地区を巡るウオーキングを楽しみました。

休憩所やゴールでは、地元の住民が準備したバナナ、黒砂糖、ゆで卵等が振る舞われました。また、会場では地元特産「仙人みそ」を使ったみそ汁の 試飲もあり好評でした。

情報通信技術が友人との再会をお手伝い



串木野養護学校小学部に茨城県から転校してきた 児童が、インターネットを使ったテレビ会議システ ムで、前の学校の友人や先生と再会を果たしました。

児童は転入後、たびたび「茨城に帰りたい」と、 前の学校を気にかける様子を見せていたものの、 直接会いに行くこともできずに寂しい気持ちでい たそうです。

そこで先生たちがテレビ会議システムを利用して 交流学習を計画し、2月9日に再会が実現しました。

児童は、テレビ画面に映し出された茨城のクラ スメートと話をしたり、ジャンケンゲームをした りして再会を喜び、寂しさも解消されたそうです。

同校では、これを機に「ICTを、訪問教育の学習 支援に利用できないか検討していきたい」と話し ています。

ケイズ知つちょつけ?

問い:いちき串木野の春の風物詩、浜競馬大 会。今年は4月15日に照島海岸で開 催されます。この浜競馬大会では、珍 しいお菓子が販売されるのをご存知で すか?その名も「馬菓堂ばふ~ん饅頭」。 見た目は馬フンを模していますが、こ の「ばふ~ん」という言葉にはもう1 つ意味があります。それはどんな意味 でしょうか。

- ①花見
- ②ピエロ
- ③サラブレッド



ふか(サメ)の魚食フェア好評



いちき串木野市・日置市の西薩海域では、サメ の漁業被害を受けていることから、本市と日置市 の漁協などでつくる西薩地区水産業改良普及事業 推進協議会は、サメの身を有効活用する事業を進 めています。

その取り組みとして、両市4漁協の直営店(海鮮 まぐろ家・照島海の駅食堂・市来えびす市場・江口 蓬莱館) は、それぞれ3月3日から11日まで"ふか" 料理フェアを開催し、それぞれの直営店でオリジナ ルふか料理を提供しました。

試食した中村健一郎さんは、「こんな美味しい味 になるとは と驚いた様子で、「(サメを獲るのは 危険が伴うので) それ相応の値がするようになる なら狙ってもいいかも」と興味を示していました。

シイタケ作りって大変



2月6日、冠岳小学校で児童が、1mほどに切っ た直径15センチほどの木の枝に、シイタケの菌を打 ち込む体験をしました。県がシイタケの栽培を通し て森の働きを知ってもらおうと開催したものです。

子ども達は一本の枝に30か所ほどドリルで穴を あけ、シイタケの菌が付いた駒のようなものを金 づちで上手に打ち込んでいきました。

6年生の服部鳳馬くんは、「枝は重いしドリルの 穴あけ作業は中腰できつかった。生産者は大変だ なと思った」と話しました。シイタケは2夏越し た秋ごろから収穫でき、採れなくなると枝は朽ち て自然に帰ります。

駅伝選手の力走に大きな声援



2月17日から21日までの5日間にわたり第65回県下一周市郡対抗駅伝競走大会が開催されました。大会2日目には、日置チームの今田翔大選手(平向)が本市を通過し、沿道から温かい声援が送られました。

日置チームは、大会二日目と最終日には日間優勝を果たし、総合4位でゴールしました。

また、早春の霧島路を舞台に、第31回鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会が1月28日に霧島市で開催されました。日置チームは、目標の3位を目指し力走をしましたが6位でゴールしました。

日置チームの今後の更なる活躍を期待します。



女性・女児の幸せ向上のために図書費贈呈



「国際ソロプチミストいちきくしきの」が、今年6月に認証10周年になるのを記念して、記念式典を2月10日に開催し、記念事業として「絵本や育児本など女性に役立つ本に使ってほしい」と図書館へ図書費20万円を贈呈しました。同団体は、DV被害防止や女性のキャリアアップ活動などをとおして、女性・女児の生活向上のために様々な活動を続けています。

ありがとうございます。

プロの技を高校生シェフ学ぶ



2月11日、いちき串木野市総合観光案内所で、料理教室があり、高校生など21名がプロの料理人に学びました。

講師を務めたのは東京でイタリアンレストランを経営する 濱﨑龍一さんと市内で飲食店を 経営する河原勇司さんです。



参加者は5つの班に分かれ、月日貝やトマトなど地元食材を使った料理やドルチェ(デザート)作りに挑戦。講師が各テーブルをまわり、コツを教えたり出来具合をチェックしたりしていました。

神村学園高等部の調理科で学ぶ3年の堂脇陸さんは、「本場の食材を触ったり、焼き串を使って装飾する方法を学ぶことができた。今後に役立ちそう」と話しました。

バドミントン協会大臣表彰



市内の6つのバドミントンクラブからなる市バドミントン協会が、平成29年度生涯スポーツ優良団体として文部科学大臣表彰を受けました。

同協会は三井串木野鉱山㈱バドミントン部を前身として昭和39年に設立。以降毎年1回大会を開催してきています。大会前には初心者を対象にしたバドミントン教室を開催するなど、競技人口の拡大や技術力向上を図ってきました。

同協会の上醉尾俊廣さんは「老若男女が楽しめるバドミントンを今後も盛んになるようにがんばっていきたい」と話しました。

小学校の想い出に旗つくり



串木野小学校6年生の3クラスが、2月、クラス旗を伝統的な染の技法で作りました。五月幟や大漁旗を作っている亀﨑染工が「小学校の思い出作りになれば」と毎年続けているものです。

2月9日、染の作業に訪れたクラスは、自分たちでデザインした図柄が描かれた一畳ほどの旗に、赤や黄色の染料を絵筆で丁寧に染めていきました。初めて染の体験をしたという野中春花さんは「仲のいいクラス。みんなの大切な旗だからいい思い出になる」と喜びました。

この日染めた旗は、卒業式の会場に飾りお披露 目されました。

~冠岳の農業を次世代へ繋げ!~ 営農組合「仙人村」設立



農家の減少や高齢化、耕作放棄地の増加といった問題を解決し、農業集落を維持していくため、 冠岳地区では、農作業を共同で行う営農組合「仙 人村」を2月24日に設立しました。市内では3か 所目となります。

組合員は冠岳地域内外の兼業農家10名。組合長の川畑千秋さんは「冠岳の自然や魅力ある観光資源を活かし、地域活性化にも繋げたい」と話します。

仙人村では、まずは焼酎の原料となる麹用の加工米や生姜を栽培し、農機具を共同で使用したり、 農作業を請け負うなどして生産コストの削減を図り、地域と連携しながら持続可能な農業、活力ある地域づくりを目指します。

100歳おめでとうございます

2月は、3名の方が100歳の誕生日を迎え、皆さんには、市からお祝いの生花や記念品が贈られました。

本市の100歳以上の方は、3月5日現在で32名です。いつまでもお元気で長生きしてください。











第25回

ロシア旅行①

薩摩藩英国留学生記念館(☎35-1865)



してロシア視察旅行を計画します。

ヨーロッパにおけるロシア勢力の後退と

森有礼と松村淳蔵は大学の長期休暇を利用

866年、ロンドンでの二回

りました。 ロシアを選んだのは、 次の3つの理由が

好奇心を満たしてくれる絶好の機会でもあ 為、大学の長い夏季休暇は、留学生たちの

留学生にとって最大の関心事でした。その 新しい動きを見聞することは、森・松村ら ンド西部)の成長など、ヨーロッパ情勢の 新興プロシア(現在のドイツ北部~ポーラ

ました。

ありました。

不公平で非合理的な専制政 藩命である海軍技術習得の為、 を自分の目で確かめること。 の実地訓練を試みること。 治の 実態 航海

会うこと。 ロシアに滞在している幕府留学生に

に深め、日本が今後とるべき「国家の在り すべき根本的な学問が、「人間についての が、ロシアとアメリカでした。西洋で研究 して二つの対照的な国を見出します。それ 方」を模索していた森は、国家のモデルと 人力」の養成も必要だという認識をさら を強くする為には、武力だけではなく

過ぎ、

0)

行」により、 二人のロシア旅行は森が書いた 知られています。 「航魯紀

次回、

4月20日号は

「森と松村

ロシア旅

②」です。

学問」であることも意識し始めていたので

経由地に

ニュー 翌 日 ロンドンを出発し、スコットランドを経て の船の都合により、 1866年8月1日、 夜九時半にイギリス北部の主都 キャッスルに到着しました。 この地で一週間を過ごし 2人は夕方六時 ロシア行

遇することになります。一つ目は、 に親切に世話してくれたのです。 すべし」と、見ず知らずの異邦人である二 に助け合って他人も自分も分け隔てなく対応 ぐらいの女性でした。不自由な身体にもかか のことでした。宿の主人は、 わらず、「世間の関わりというのは、 二人はここで、二つの衝 撃的 持病のある50 な出来事に 宿泊先で お互い

訓練まで行っている事実に驚きました。 た時のことです。生徒たちに手話や点字を用 いて教育し、意志表現をさせ、さらには職 二つ目は、 視聴覚障がい者の施設を視察し 業

神が慣習としてあることを感じ取りました。 の根源には、「人間に対する尊厳」という精 の中、ロシアへ 適ぎ、航海日和 8月8日の昼 西洋の進んだ文化

ロシア旅行中の森有礼

高校生が作った 明治維新150周年 オリジナルロゴマ

いちき串木野 明治維新15●周年

ロゴマーク制作 ドキュメントム・

いちき串木野市民(1枚で5人まで) 平成30年3月31日 (土) まで

※点線を切り取り、来館時にスタッフへご提示ください。



無料クーポン 30年3月31日ま

目の夏

ロシア視察旅行を決めた理由

この二つの出来事から、

向けて出航しま



チャレンジ農業の おごいよ塾通信

農政課(☎33-5635)

~第 17 号~ [時々、遊び心]



·ぽんかんdeバレンタイン企画·

いちき串木野市は、県内でも有数のぽんかんの産 地です。温暖な気候と水はけの良い土壌、そして生 産者の熟練の技がとても甘くて美味しいぽんかんを 育てます。

たくさんの想いが詰まったぽんかんを使った ジュースができました♪体にやさしい原料を使用

> し、余分な添加物は一切使用 していません。

> 今年のバレンタインは、大 切なあなたに愛をこめて「お ごじょのぽんかんジュースト を贈ります。

チャレンジ農業♥おごじょ塾

ぽんかんジュース加工体験

(2月13日)



まずは皮むき作業から。 最初にさっと湯通しする ことで、皮がとても剥き やすくなります!

ジューサーで優しく果汁を絞 ります。ぽんかんの苦みを抑 えるため、今回は温州みかん をブレンドして使います♪





絞った果汁を85℃で3分間 殺菌。

安心・安全なジュースを提 供できるよう、食品衛生法 についても学びます。

遊び心たっぷりの「チャレンジ企画」として作ったぽんかんジュースでしたが、思いのほか大好評! 今後の商品化・販売へ向けて意欲を燃やすおごじょ達でした♪

8

畑deエクササ〜イズ♪

じゃがいもの定植作業中、おごじょ畑では、長靴姿 で一生懸命足腰を動かすおちゃめなおごじょ達の姿が!! 道具を使わず、自らの足を使って土を埋めていく作 業です。

…横着 (笑)!?

いえいえ、これは見 た目以上に体力を消耗 し、運動不足のおごじ ょ達にとっては一石二 鳥の、斬新な農作業ス タイルなのです(*^_^*)



ハウスde鼻唄♪

どうせするなら楽しく作業! 時には鼻唄も出てきます。

> ♪上から読んでもトマト♪ ♪下から読んでもトマト♪



ミニトマトの播種作業

塾生の声 畠中啓子さん

これまで農業経験はあり ましたが、長く畑とは無 縁の生活を送っていまし た。そんな時に、友人か らの誘いで参加したのが

おごじょ塾でした。

この1年間たくさんの企画の中で、塾生のみなさんと 楽しく勉強をさせていただきました。中でも「ネタロウ スイカ」は母の実家で食べた懐かしい記憶がよみがえり、 特別な想いで栽培に挑みました。また、棚田で作った新米 のおいしさは忘れられない味となりました。

自分で植えた野菜の1つ1つの生長過程を見守りなが ら、大事に育て、おいしく食べられる喜びを実感できる ことはこの上ない贅沢だと感じています。たくさんの経 験で、とても充実したあっという間の1年間でした。



















